

さんのへ 議会だより



1月18日、二戸市・三戸町・田子町議会議員協議会の調査研究活動が三戸町で行われました。講師に青森中央学院大学の佐藤淳准教授を迎え、広域連携のあり方について3市町村の議員、職員同士が話し合うワークショップ形式で意見を出し合いました。

第179号（平成31年2月19日号）

三戸人ピックアップ特集	2
12月議会一般質問	3
国保税額を改定（12月議会議案審議）.....	8
議員活動レポート	9
行政視察報告	10



「12月議会を見学して感じたこと」

～ 寿教室の皆さんにご意見をいただきました!～

馬場のぼる作「11 びきのねこ」こぐま社刊より

行政に関すること		議会に関すること	
1	町政のことが少々わかった。これからの活性化 よろしく (80 代女性)	1	質問者の声が低く、ぼやきのような部分があり ました。答弁側にもそれが感じられ、聞きにく かった (60 代女性)
2	二日町から元木平までトイレがなくて困ってい る。個人の家で借りて用を足している。年寄り が多くトイレが必要 (80 代女性)	2	質問議員のマイクが聞こえませんでした。町民 として身近な大切な質問ですけど難しかったで す (70 代女性)
3	三病職員の対応について、人間相手なので、 態度、言葉遣いの指導を。となり町はていねい で細やか。プロ意識を持って。地方の「まあまあ」 「なあなあ」は通用しない (70 代女性)	3	静かに聞いているが、元気にはっきり意見を述 べてほしい。ちょっと声が低い。ただ話し合い をするのはどうかと思う (70 代女性)
4	ハザードマップを、町内会をとおし各家庭に配 布したとのことだが、命を守るには不十分。配 布だけでなく、理解できてこそ。集会で理解させ てほしい (60 代女性)	4	議員がいろいろ質問されているようでしたが、 この機会に広報等を見て関心を持ちたいと思っ た。議事・質問・回答は意義のある内容だった (70 代女性)
5	除雪のとき、家の前を片づけていってもらいた いといつも思っている (年代性別記載なし)	5	ダラダラ話をしたように見える。1 人 1 時間と かにしてほしい (年齢性別記載なし)
6	いろいろ参考になった。町の状態をもう少し見 て歩くとか、町内を回り聞いてもよい。考える だけでなく実行を (80 代女性)	6	町長など前列の役職名は見えるが、2 列目以降 は何課長かよく見えない。資料に書いてあれば 理解できる (70 代女性)
7	町制 130 周年の企画を、町民から募集した案 で作ってほしい。紙人形で作った城山の花祭り の展示を (町民が人形を作り仲間意識を高め、 楽しめる事業を) (60 代女性)	7	議員の話がよくわからない。町の活性化につ いて何もやっていないように見える (年齢性別 記載なし)
		8	高齢者なので細かい言葉がわからない。ただ 時間の経過を待つのみだった (80 代女性)



12 月議会を見学いただきありがとうございました。
皆さまからいただいたご意見等を、私たち町議会議員は真摯に受け止め、わかりやすい議会への参考に
させていただきます。今後とも引き続き議会へのご協
力をお願いいたします。

三戸町議会議長 澤 田 恵

山口 菊男 議員



Q1

新年度予算について

平成29年度の財政健全化判断比率、資金不足比率はクリアしているが、元氣な三戸町づくりにはいっそうの振興を図らなければならぬ。

来年は町制施行130年だが、かつての三戸町から見ればほど遠い状況である。

地方交付税の減少も見込まれる中、新年度は将来につながる特性、実効性のある予算編成にしたいとたく、次の項目について伺います。

①人口減少対策に効果的な予算とは

②地方交付税の減額予想と対策
③農業、商工業、観光、医療に

Q. 人口減少対策に効果的な予算とは？

A. 人口減少緩和のため今できることに着実に取り組む予算

新たな政策を考えていないか
④基金残高は適正か
⑤債務合計残高は
⑥町政施行130周年記念事業を考えているか

A 松尾町長

①平成27年に将来人口の分析を行い、移住定住の促進など、総合戦略に基づきさまざまな取り組みを行っている。

即時的な効果は難しいが、人口減少緩和のため今できることを着実に実行する。

②平成31年の国の概算要求で0.5%の減と示されている。

交付額は地方財政計画で変動し、国勢調査人口で算定されるため、長期的には減少していく見込みである。

③農業では所得向上、生産振興、担い手育成の継続のため、農家

提案型の「農家レベルアップ事業」による取り組み支援や「木の駅事業」に取り組む。

商工業ではプレミアム商品券など、商工会等の団体と連携し、空き店舗解消などのにぎわい創出対策を計画している。

観光では「まちあるき」などの着地型観光の発展と「11匹のまちづくり事業」で町への誘客を推進する。

医療では、オーダリングシステムへの導入による利用者の利便性の向上に取り組む。

④平成29年度末残高は合計16億1千97万2千円であり、類似団体との比較では低い水準。

⑤平成29年度末で一般・特別会計合わせて120億3千169万6千円。

⑥町の伝統や魅力を再認識し、町を挙げてお祝いできるよう、記念式典や講演会の開催を検討

している。

Q2

三戸町の国土強靱化地域計画の策定について

わが国の震災や水害といった災害は、近年多様化、激甚化、広域化の傾向にある。

こうした事態を避けるためには、被害が致命的なものとならず、迅速に回復する国土、経済、安心システムを平時から備え、取り組むことが肝要である。

国では「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災、減災等に資する国土強靱化法」に基づき「国土強靱化基本計画」を策定し、県では「青森県国土強靱化地域計画」を策定した。

三戸町も国、県、近隣市町村、民間事業者、町内各団体等と連携した国土強靱化地域計画を策定しなければならぬが、次の項目について伺います。

①計画し策定による効果とは

②人命保護とは

③社会の重要機能の維持とは

④財産及び、公共施設の減災とは

⑤迅速な復旧復興とは

A 松尾町長

①大規模自然災害に対する町の弱さを評価することで、事前防災と減災のために必要な取り組みが明らかになる。

それを進めることが住民の生命、生活を守ることにつながる。

②いかなる災害時にも人命の保護が最大限に図られるべきであり、救助救急医療が迅速的確に行われなければならない。

③生活と生命の維持に必要な不可欠な、行政と社会の重要な機能が致命的な障害を受けずに維持されること。

④災害対応にあたる行政機関の建物や避難所の大規模な機能低下を防ぐための耐震化、通信機能の維持に取り組むほか、業務継続計画の策定、広域連携体制強化を行う。

⑤災害発生後であっても、地域社会、経済の迅速な再建と回復により復興が可能となるよう、平時からの対策を図るもの。



久慈 聡 議員

Q1
役場の危機管理体制について

先に発生した大阪府大地震により、高槻市ではブロック塀が倒壊し小学生が死亡した。

このような中、三戸町はどのような対応をしているのか、また、東日本大震災のような地震被害、大雨被害、台風被害の対応体制はどうなっているのか。

A 松尾町長

大阪府北部地震後、町でブロック塀の調査を行い、撤去が必要なのは計画的に処分するほか、民家の塀の安全点検を広報に掲載し、周知を行った。

災害時の対応については、職員の参集などの初期行動のため、災害時初動体制マニュアルを策

Q. 大規模災害への対応体制は？

A. マニュアルにより適切に対応する

定し、災害発生前、発生後のそれぞれの段階で職員が適切に対応を行う。町全体の対応は地域防災計画に基づき対処する。

A 建設課長

民家のブロック塀は個人の財産であり町で撤去できない。所有者に点検等するようお願いするため、情報がある場合は建設課にお知らせ願いたい。

再質問1

民家のブロック付近は今も人が歩いており危険である。町道沿いなら何らかのアクションを起こし、個人からの連絡にしっかり対応を。

災害が発生したときの対応は、ハザードマップなどの情報をどれだけ認識しているかが重要であるが、お年寄りまで周知されているのか、その認識度は。

A 総務課長

周知度について調査していない

いので具体的にはわからない。

再質問2

地域防災計画に基づき災害時の指示系統や役割分担をしているが、職員の人事異動による引き継ぎ、責任区分のタイミングは。

A 総務課長

人事異動があつた日に責任が発生するため、その日より前に元の担当と引き継ぎを行う。

まとめ

旧八日町町内会館前交差点など、事故の可能性がある場所はまだまだある。

地域の人びとが安心して暮らせる環境が整っているか、きちんと情報を認識した危機管理体制を持つことがひとつ。そして行政主体の災害対応は、組織の責任と権限が明確であるのが当然で、町民の安全を一番に考えて機能する組織づくりと災害への認識度を高める努力を。

Q2

町の活性化について

昨年度始まった地域活性化補助金により、イベントなど、町の活性化に寄与する活動が行われ、松尾町政の成果が現れてきた。より一層の活性化のために、町民が一体となり、また役場職員の努力も必要である中、活性化補助金の活用状況や効果、有効活用されているのか伺います。

A 松尾町長

昨年度は2団体2事業に交付。両イベント共に盛況であり活性化につながっている。

再質問1

老若男女が地域活性化するには、補助金申請の敷居が高いため、柔軟な考えで対応しては。

A 松尾町長

可能な限り制度設計の理念を見つめなおし、考えていきたい。

まとめ

活性化を町民主導で進められよう、町民のやる気を失わせ

ない対応を。

Q3

町制施行130周年に向けて

新年度の予算編成に当たり、三戸町の130周年を節目としたさらなる発展と、先達が残した遺産を大切に、情緒と風土色ゆたかな町への進展を願った文化的な事業として、町はどのような案を考えているか。

A 松尾町長

町民の皆さまと町の歴史を振り返り、未来に希望を感じる式典や講演会などを考えている。

再質問

記念事業として、三戸城が山吹城と呼ばれた史実があるため、減った山吹を植栽してはどうか。

また、長年にわたるボランティア等で町に貢献した多くの個人や団体の表彰を行う町民主体の式典を実施してはどうか。

A 松尾町長

山吹の植栽の件、町に対して長年貢献されている人びとの表彰も含め、いろいろ検討したい。

大向 信市 議員



Q1

町長任期中の公約と課題

(1) 町長は選挙中、介護保険料の軽減を訴えたが、実際行ったことは青森県内1位という料金からの年間170円の引き上げ負担である。今後の軽減策は考えているのか。

(2) 義務教育費について公約の中にあり、教材や学校給食費の無料化を徐々に実現に向けて進めたいとあるが、現在どの段階でいつ実現するのか。

(3) 商店街について「現況を見て活力のあるまちづくりを」と言ったはずが、何をしようとしているのか、松尾町政がよくわからないという

Q. 町長が残る任期中に目指すものは？

A. 3つの目標のため誠心誠意取り組み

声がある。どのように進めるのか、町民との意見交換も考えるべきと思うが、町長の考えは。

(4) 松尾町政もあと2年ほどで任期切れとなる。残る時間で約束した政策と公約、新たな事業など、任期中に目指すものは。

A 松尾町長

(1) 今後も介護保険料を負担していただく皆さまの健やかな生活を守るため、介護保険料の改善に努める。

具体的にはサービスが必要な方に適切に提供する一方、新たに要介護になる方が増加しないことを目標に、介護予防事業を積極的に推進する。

(2) 今年度から、3人以上の子どもがいる家庭の経済的

政策課題に取り組むことにした。

① 農工商・活力あふれるまちづくり

これに関して、三戸ブランドの構築をめざし、地域商社設立に向けた取り組みを進め、三戸精品11品を開発した。

また、基幹産業である農林業を元気にするため、農業レベルアップ事業、木の駅プロジェクト事業を立ち上げた。

② 医療の行き届く福祉のまちづくり

これに関して、介護保険料改善と医師確保へ取り組むとし、介護保険料は県下1位であったものが3位まで改善。医師確保については県や弘前大学へ引き続き常勤医の派遣をお願いしている。

③ 歴史と文化・教育のまちづくり

これに関して子育てのしやすいまちづくりの実現について、小児科診療の充実のため、三戸地域出身の医師招聘しよへいに取り組んでいるほか、子育てサポート祝い金による経済的負担の軽減を行った。

観光名所の復活については三戸城跡の国の史跡指定を目標に発掘調査や文献資料の整理により、大御門おほごもんの発見に至った。今後も町内の歴史的財産を次世代へ受け継ぐ取り組みを行う。

町政の見える化については町ホームページのリニューアル、ソーシャルネットワークにより、リアルタイムに情報発信ができるよう発信力を強化した。

このほか、青森大学と包括連携協定を結び、町の課題解決のため、高齢者健康教室や歴史文化を活用したまちの活性化事業などを計画している。また、中央大学とも協定を結び、農業用アシストスーツの実証実験に協力しており、作業負担の軽減と効率化、新規就農者の増加が期待される。さらに、フィリピンの八戸学院カテドリック高校との協力関係を築き、将来日本語を生かせる高度な人材が三戸町でITや介護も分野で就労することで、町の国際化や生産人口の増加が図られるものと期待される。

町長就任以来、新たな課題も発生しているが、町民、議員の皆さんの意見を伺い誠心誠意取り組みでいく。

坂本 勝克 議員



Q1

三戸中央病院について

三戸中央病院では「経営改善プラン」を策定し経営改善に取り組んできた。

国は「新公立病院改革ガイドライン」を示して新改革プランを策定するよう要請し、これに基づき「新三戸中央病院経営改革プラン」の素案を、関係者により検討、意見集約しているが、次の点について伺います。

(1) 新経営改革プランは計画どおり進行しているのか

(2) 経営の効率化中の、目標達成に向けた具体的取り組みについて

(3) 近隣の医療機関や介護施設との連携を図り、病棟稼働率向上を図るとあるが、現状は

Q. 三病の改革プランは計画通り進行しているのか？

A. 目標を上回る成果が上がっている

(2) 訪問診療の充実・強化により、入院患者数を増やすとあるが、実態は

(3) 毎月の経営状況および目標数値を全職員に周知するとあるが、その方法と成果は

(4) 組織や個人の目標を設定し、個々の能力向上を図るとあるが、どのような目標か、また成果が上がったか

A 松尾町長

(1) 経営改善の目標数値を毎年設定している。現在のところ目標を上回っており、成果が上がっている。

(2)

(1) 患者の受け入れ調整を行う地域連携室を設置しており、受入数は年々増加している。今後も連携強化を図り、入院患者の増加に取り組む。

(2) 訪問診療は町内と南部町の4

Q2

町制施行130年について

看護師が話をうかがったり、具合が悪い人を早めにしたりとといった調整や、混んでいるときは事前に告知するなどの対処を徹底する。

A 病院事務長

平成31年は町制施行130年を迎える。町政発展に努力された先人の英知と苦勞に感謝しながら、更なる飛躍へ、時代のニーズに素早く対応しなくてはならないが、町制施行130年の記念式典や行事について、どう考えているか。

A 松尾町長

先人の功績に感謝し、郷土への誇りを感じる大事な機会であることから、町民とともに節目を祝い、町がさらに躍進する契機となるよう、事業内容を検討し、実施したい。

Q3

三戸町民歌について

町村合併10周年記念で制定した「三戸町民歌」が浸透していない。制定が全国的ではなかった時代に三戸町が制定したことは、まさに文化の薫りと古い歴史が由縁であり、歌い継がれるべきだが、どう普及していくか、また学校教育や社会教育ではどう取り入れるのか。

A 松尾町長

町民が参加する行事で流したりホームページに掲載するなど、浸透に取り組む。

A 友田教育長

学校では授業時間の確保などの理由により、歌う機会がない。社会教育では町民運動会や成人式で歌っている。

町制130周年を機に、児童生徒へ教えたり歌ったりする機会を作るよう働きかけていくほか、町のさまざまな行事で歌う機会を設け、普及に努める。

再質問

待ち時間の長さに対する苦情が多い。受付から診察終了まで3時間も待つのは苦痛であると思うが看護師が状況を伝えるなどの対処はないのか。

澤田 道憲 議員



Q1

人に優しいまちづくりを目指して

- (1) 子どもの子育ての充実について
- ① 病後児保育の新設をしてはどうか
- ② 学童保育のあり方
- ③ 高校生が小中生徒に寄り添った学習等交流事業を図ってはどうか
- (2) 障害者雇用促進に向けた取り組みは
- (3) 高齢者が興味を示す支援事業を考えてはどうか
- (4) だれもが安心して暮らせる地域医療の取り組みは
- (5) 協働のまちづくりの取り組みは

Q. だれもが安心して暮らせる地域医療の取り組みは？

A. 町民の安心と健康のため需要を把握し、地域医療を守る

A 松尾町長

(1) 病後児保育は、民間保育施設において、来年度からの実施が検討されているため、町は事業が円滑に立ち上がるよう支援する。

② 学童保育は中央児童館、斗川児童館で実施している。安全で安心感のある生活の場となるよう、保護者と職員が連絡を密にし、安心して楽しく過ごせる児童館運営に努める。

③ 町内すべての町立小中学校が三戸高校と連携協定を結び、12年間を見とおした教育を推進している。具体的には、夏休みに高校生が小学生の学習指導を行う「寺子屋事業」や、部活動の合同練習、6年生への進路決定についての体験講話などがある。

(2) 役場での障害者雇用率は1・38%と国が定めた法定雇用率2・5%を下回っている。臨時職員の障害者枠を設け、ハローワークを通じて募集しているが応募があまりなく、あっても条件が合わない、通勤が困難などの理由で採用に至らないケースが多い。今後も障害者に寄り添った条件整備などにより人材確保に努める。

率2・5%を下回っている。

(3) 蛇沼下川原地区で、高齢者が休耕地で労働負担が少ないエゴマを栽培し、搾油してエゴマ油を産直で販売している。これをモデルに、高齢者の生きがいづくりのため、関係課と連携した支援を行う。

(4) 人口減少、少子高齢化により、回復期医療や在宅医療の需要が増加すると考えられる。町民の安心と健康のため、医療需要を把握し、地域医療を守る。

(5) 町民が主体となる対話の場の設置・運営をし、町民同士の相互理解をもとにした行政、

町民、企業、団体等とのパートナーシップによる町づくりを進めている。そのために昨年度は6回の講座を行い、今年度はまちづくりに関する対話の推進のため「さんのへYORIIAI未来会議」を設置している。今後、対話による協働のまちづくりを進めたい。

Q2

10年後の三戸農業について



蛇沼地区で生産したエゴマをしぼったエゴマ油

農業就業者の平均年齢は67歳と高齢化しており、年齢でリタイアする農家も多い。農家の減少は耕作放棄地の増加であり、地域の衰退につながるが、農家の後継ぎ育成定着の取り組みは。

A 松尾町長

国の青年就農給付金事業で平成24年度から30年度まで24名

が後継者として就農している。また就農相談はここ3年で10件あり、6名が親元就農し、4名が将来の就農を希望している。今後も人材確保のため関係機関と連携し、都市部からの移住定住も推進し、掘り起こしに努める。

さらには農家提案型補助事業により、品目にとらわれない、ハード、ソフト両面での所得向上、省力化、新規作物への取り組みを支援していく。

Q3

採択された事項の処理について

道路改良等の陳情をどのように処理されているか。

A 松尾町長

皆さまからいただいた道路改良の陳情は過去10年で11件、ここ2年で6件着手している。財源確保、公共的優位性、緊急性、関連事業の進捗よくにに応じて順次処理をしている。

案議 議審

安定的な国保運営のため

国保税額を改定

三戸町国民健康保険税
条例の一部を改正する
条例案

【提案理由】

現在三戸町の国保事業は、ひとり当たりの医療費が伸びているなか、財政調整基金を取り崩しながらの厳しい運営状況が続いている。

将来にわたり健全で安定的な国保事業の運営のため条例を改正し、税額を改定するもの。

Q. 山口菊男議員

要は年間平均3千円ぐらい上がるかと解してもよいのか。また今後も値上げ傾向が続くのか？

A. 住民福祉課長

平均するとそのような結果になるが、一律に3千円アップするわけではなく、世帯の

所得や構成人数などにより違いがあり、値上げになる人も値下げになる人もいます。今回は高齢者や低所得者へ急激な負担とならないよう配慮した改定となっている。

今後の傾向としては、現在被保険者が毎年200人ずつ減っているのに対し、医療費は横ばいとなっており、ひとり当たりの医療費は増える傾向にある。

今回の改正により皆さまに負担を強いことになるが、医療費の適正化や国保税の収納率の維持・向上を基本に事業を進めていきたい。

Q. 大向信市議員

これまで7割、5割、2割の軽減を図っていたと思うが、軽減対象世帯数は？

A. 住民福祉課長

平成30年度は7割が660世帯、5割が265世帯、

2割が245世帯で、全体の62・8%の世帯が軽減対象になっている。

その他の議案

○道の駅さんのへの指定管理者の指定について

（道の駅さんのへ共同事業体を指定管理者に指定）

○三戸町農林産物直売施設の指定管理者の指定について

（SAN・SUN産直ひろばを指定管理者に指定）

○深山町営牧野の指定管理者の指定について

（農事組合法人三戸牧野組合を指定管理者に指定）

○三戸町葉たばこ乾燥施設の指定管理者の指定について

（三戸たばこ受委託乾燥組合を指定管理者に指定）

○三戸町人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて
（佐野奈美子氏の再任）



○三戸町一般会計補正予算（第6号）

歳入歳出それぞれ8千802万7千円を減額するもの。

【主な内容】

〔歳入〕

ふるさと納税寄付金を6千万円増額するほか、各科目を減額。

〔歳出〕

ふるさと三戸応援基金積立金2、452万7千円、道の駅さんのへ空調設備更新工事費345万6千円の増のほか、各種事業見直しによる減額。

○三戸町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）

【主な内容】

機械の老朽化による交換等の修繕費などにより、全体で322万1千円の増額。

○三戸町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第2号）

【主な内容】

国保情報データベースのシステム改修に要する費用27万円などにより、全体で58万4千円の増額。

○三戸町国民健康直診勘定三戸中央病院事業特別会計補正予算（第2号）

【主な内容】

職員の異動や退職などによる人件費639万5千円の減額、燃料費390万円の増額などにより、全体で49万6千円の減額。

※すべての議案が賛成多数で可決されました。



老朽化した空調設備を更新する道の駅

議員活動レポート



三戸町議会議員は総務文教、民生商工、建設農林の常任委員会のいずれかに所属しており、議会閉会中に各委員会が担当する分野について調査を行っています。また、さまざまな研修会にも参加し、議員の資質向上のため勉強しています。

総務文教常任委員会

船場清治・船場 栄
山口菊男・佐々木和志
坂本勝克

町内小中学校を調査

10月29日、町内の学校施設の管理運営状況について調査しました。

【調査場所】

- 三戸小中学校
- 斗川小学校
- 杉沢小中学校

【主な調査結果・意見】

船場委員長

全体的なおおむね良好に運営されている。斗川小学校体育館の照明スイッチについては、高額ではないので早急に対応を。

坂本委員

三戸小中学校校舎の雨漏りについて、補助金を活用するなどして改修を。

全委員

杉沢小中学校玄関前の通路のくぼみにより、雨天時歩行困難となる。少しずつ補修しているようだが、全体の修繕の検討を。



民生商工常任委員会

澤田道憲・大向信市
久慈 聡・大平憲男
澤田 恵

埋蔵文化財センターを調査

11月27日、三戸城跡の発掘調査が現在進行中であることから、埋蔵文化財の調査研究展示施設について調査しました。

【調査場所】

- 三戸市埋蔵文化財センター

【主な調査結果・意見】

澤田道憲委員長ほか

- 三戸城跡の遺跡保護のため

にも体制づくりが重要。

○もつと予算と人員の配置を。
○三戸城跡以外の遺物の活用も含め、膨大な資料や書籍の管理・保管のためにも、三戸町に埋蔵文化財センターが必要ではないか。

○三戸城跡の国史跡指定の機運盛り上げのために、町民へも雰囲気の盛り上げを。



建設農林常任委員会

北向 敦・中村喜正
和田 忠・工藤範光

農作物生育状況等を調査

9月18日、町内の農作物の生育状況と大雨被害の復旧状況について調査しました。

【調査場所】

○村中橋（梅内）、りんご（泉山）、沼ノ沢線（災害状況）、貝守（農災状況）

【主な調査結果・意見】

北向委員長

○村中橋の拡幅について、平成26年に陳情された案件であり、住民の利便性を考え十分に精査したうえで進めてほしい。

○りんごについては順調に生育している。

○大雨による農地災害は早急に復旧作業に取り組んでいたきたい。道路災害は費用が高額となるため、県と協議を重ね、復旧に努めてほしい。



行政視察報告①

各常任委員会では年に一度、調査・研究のため県外視察を行っています。

総務文教常任委員会（10月23日）

株式会社モリタホールディングス三田工場

報告者 船場 栄

工場の概要は、敷地面積56,934㎡、東工場では、消防ポンプ車の製造の他、悪路走行・登坂路テスト場、転覆角度測定場、放水テスト場などがある。西工場では、はしご車の製造をしている。

株式会社モリタホールディングスでは、日本で活躍する消防自動車の半数以上（年間700台）を、この三田工場で生産している。

三戸町で購入している消防ポンプ自動車も、昭和53年より100%モリタ自動車ポンプで占めており、現在まで25台が納入されている。

三田工場では、組み立て・製造はもとより、様々なテストを繰り返し、安全な車を製

造していた。

消防自動車は一台として同じものはなく、全て受注生産されており、地域にあった車体・装備など、注文を受けてから1台1台手作りして要望に応えている。

三戸町消防団においては、有事の際にはいち早く現場に向いて、消火・救助活動を行っており、その際に、消防ポンプはなくてはならないものである。

その性能を100%引き出せるよう、消防団の皆様には勉強をして、有効に使っていただき、町民が、安全・安心に暮らせるようご尽力をお願いしたい。

今回の視察を通じて、自動

車ポンプの重要性を再認識した研修でありました。以上報告します。

※他の視察地

「兵庫県宝塚市手塚治虫記念館」



民生商工常任委員会（10月29日）

（株）土澤まちづくり会社

報告者 久慈 聡

会社設立時の人口は約1万人と現在の三戸町と同規模であり、行政と会社の協同経営に関して興味があった。

◆経緯

平成14年に資本金1,000万円（うち、町民株主500口／1万円）で設立。事業の主旨、経営理念、方針等はいっかりしており、組織としての自立性は高い。しかし、現状は町民株主の60%は業者の寄付であり、40%が町民の有志にて行われた。行政は、50%の出資に関し前向きではなくトラブルも多かった。そのため、行政は投資をしたが、組織運営全てを会社に一任したようである。

設立時は景気が良く国の補助金も容易に採択となっていた結果、補助金ありきの会社運営が続ぎ、補助金が切れると人件費支払いの為、資本金が食いつぶされたようである。

平成18年花巻市と合併し、

土沢は中心街ではなくなったことで補助金申請ができなくなり、平成22年には資本金が200万円ほどになり、組織変更を行い、猿舘祐子氏が代表に就任。行政の協力はなく、資本がないことから代表一人無報酬での組織運営を行い、関係者もほとんどがボランティアであった。

資本金が100万円となった平成29年に花巻市から「有線放送運営管理委託事業」そして、中心市街「顔づくり」事業を受託。「おしかけ商店街」補助金等も受け、現在資本金200万円となっている。

◆今後

旧東和町の商店数は10年前に比べ半分以上の50店舗となり、後継者不足、店の老朽化、店主・客層の高齢化による売上げ減少から、5つの目標を掲げた。

- ① 古くて新しいまち
- ② 歩いて暮らせるまち
- ③ にぎわいを創るまち
- ④ 環境に優しいまち
- ⑤ ふれあいのあるまち

まちかど美術館、アート&クラフトマーケット等歩行者天国を企画し、2日間で3〜4万人の観光客を呼ぶことに成功したが、町外業者が地元商店の前に店を出すため、地元商店へ落ちるお金は少なく苦悩は続いている。

しかし、多くの発想を現実にするために邁進する猿舘氏は、「将来の若者の未来を創っていくのは若者自身である」と考えており、そう若者が考えるような施策等を行っていることに感銘を受けた。

◆感想・課題等

このように、地域住民の立場から、また行政の立場から猿舘氏の行うべきことを今回学ぶことができ、三戸町民も将来への不安を感じるだけではなく、危機感を敏感に感じ、次世代の町民が安心して暮ら

せる土台を、ハード面ではなくソフト面から構築することが必要ではないかと考えさせられた。

苦悩しながら愚直にまちづくりを考えている猿舘氏の思いや言葉の重さを、今後の議員活動へ生かしていきたい。

※他の視察地
「盛岡市もりおか歴史文化館」ほか



建設農林常任委員会（11月21日）

JA東京アグリパーク

報告者 和田 忠

JA東京アグリパークは、農林水産業の情報発信拠点として平成29年に新宿駅南口近くにオープンした施設であり、東京産食材等の展示販売を行うほか、定期的に農業体験や料理教室等を開催している。

また、週替わりで地域の特産を生かしたイベントなどを行い、都民に「農業の魅力や重要性」、「地産地消の大切さ」、「農林水産物の魅力」を発信していくための都内初のアンテナショップである。

館内は、木目と白を基調とした約35坪の空間となっており、前面ガラス張りの構造から明るい雰囲気演出されていた。農林水産業の情報発信拠点として開設されたこともあり、様々な形で情報がPRされていた。PR方法は次のとおりである。

①「正面サインージ」入口付近に120インチの大型サイ

ネージを設置し、イベントや各地の農産物を紹介。

②「サポートデスク」農産物の取扱店・飲食店の紹介。

③「タッチパネル情報端末」全国のJAの取り組みや農産物に関する情報検索

④「アグリマイスター」東京産野菜販売ブースの設置

⑤「農業体験」プラントナーによる収穫体験、調理体験を随時開催。

⑥「イベント開催」全国各地の農業関係団体による週替わりのイベント開催

特に週替わりのイベントの開催は、大きなPR効果が期待でき、昨年度の実績は、出店団体数50団体、年間来場者数約235,000人、年間販売高は約5,000万円であった。

また、あぐりキッチンを活用し、地域特産品を使用したメニューを提供することがで

きる点も魅力であり、集客効果につながっている。

イベント開催費用については、1週間で216,000円（光熱水費、レジ袋、備品貸出費込み）としており、安価での利用が可能である。

東北地方のイベントを開催してほしいという消費者の声も多いことから、青森県または三八地区の開催を是非検討してほしいとのことであった。

※他の視察地
「東京豊島青果市場」ほか



会津若松市議会（11月7日）

報告者 大平 憲男

「議会改革について」

会津若松市は戊辰戦争から150年の記念の年を迎えている。会津藩士は斗南藩として移封された青森県の下北や三戸、五戸等に移住し、青森県に大きな影響を与えた。

町内には会津藩ゆかりの文化財が残り、また市長が今年初めて三戸町を訪問するなど、現在交流をスタートさせたところである。

このような中、青森中央学院大学の佐藤准教授から、会津若松市は古くから議会改革に取り組んでいる自治体であるとの助言をいただいたことから、今回視察地として選定した。

研修では、事務局職員ではなく市議会の樋川予算決算委員長と大山議員の2人が自ら説明にあたった。

会津若松市は人口12万人あまり、議員数は30名、5つの常任委員会を有する。

市民との意見交換により会津若松市議会基本条例を定めており、議会基本条例に基づく議会改革では『市民参加を基軸とした基本方向』を主要事項に、市民との意見交換会を年に2回、市内を15の地区に分けて実施している。

意見交換会で出された意見、要望等について、議員が現場を視察、検討し、最終的には広報広聴

委員会が実現可能か不可能か判断し、着手すべきと判断されれば行政側へ働きかけるシステムが完成されている。

議員が市民の意見をそのまま行政に伝えても行政はなかなか動かないが、議員がきちんと検討したうえで働きかけることにより、行政も動くようになったとのことである。

三戸町は会津若松市の1割の人口規模であるが、今後どこまで改革できるか検討したい。



第479回 三戸町議会定例会(3月議会)のお知らせ（予定）

2月28日(木)	10時から	開会、町長による提案理由の説明
3月1日(金)		議員が議案を熟考するため休会
3月4日(月)	10時から	一般質問（議員が町政全般について町長らへ質問します）
3月5日(火)	10時から	一般質問（予備日） 議案審議（条例案など、議会の議決が必要な案件を審議・採決します）
3月6日(水)	10時から	予算特別委員会（来年度の町の予算が適正か審議します）
3月7日(木)	10時から	予算特別委員会、本会議（諸報告）、閉会

編集後記

平成最後の新年を迎え、早いもので2か月がとうとう過ぎますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、三戸町議会では昨年から、議会改革に本腰を入れております。

しかしながら、議会改革とはいったい何なのか、イメージが湧かないと思います。さらに言えば、議会が、議員が、いったい何をしているかわからない方も多いと思います。

議会改革先進地では、活動が見えにくかった議会を、住民との対話を重要視し、共に考え、それを行政へ反映させることで、身近で頼れる存在へと変化させています。

当町議会も今までのイメージから脱却し、時代や地域のニーズに合った議会へと変革していかなければなりません。議会改革への皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

（澤田 恵）

議会広報編集委員会

委員長 船場 清治

副委員長 北 向 敦

委員 澤 田 道 憲

委員 山 口 菊 男

委員 佐々木 和 志

澤 田 恵